

# そよかぜだより

第91号

発行 2009. 12. 20

毎月1回発行  
社会福祉法人  
そよかぜ

### 連絡先

ひばり園 578-0855  
FAX 578-0466  
くれよん 578-2575  
つくしの家 578-0855  
あおぞら 570-6110  
エール 570-1233

資源回収時のご連絡は  
「ひばり園」へ

新しい施設で、新事業が始まりました

十二月二十八日・ひばり園竣工記念式典

十二月一日・利用者・保護者参加で祝賀会

竣工記念式典は実に多数の来賓の方々にご出席いただきました。ひばり園の式典で、これほど多彩で大勢のご来賓の方にご参加いただいたことは、かつて無かつたことです。

式典は、社会福祉法人そよかぜ野崎理事長の主催者挨拶（2面に掲載）から始まり、羽村市長・並木心様、羽村市議会議長・船木良教様、衆議院議員・井上信治様、都議会議員・林田武様、都議会議員・田幸成様の五名の方にご挨拶をいただきました。

並木市長は「この新しい施設は、行政主導から民間主導へという今の福祉の流れに沿ったものである、今後のさらなる発展に期待している」と述べられました。

井上代議士は「障害者福祉については、かねてから強い関心を持っている。いま、障害基本法の改正まで含めた新しい施策を検討している」と述べられました。

式典の後の懇親会では、来賓の方々からお祝いの言葉をたくさんいただき、数名の利用者代表が抱負や決意を述べると盛大な拍手をいただきました。ひばり園にとっては、まことに晴れがましい一日でした。

翌日から2日間かけて、さっそく旧ひばり園から新ひばり園へ引越しが始まりまして。大きな機材の搬入は2日間ではなくとも終わりで、十二月一日には利用者と保護者参加で開所祝賀会を開き、保護者の方

に新施設のお披露目を兼ねてお祝いしました。旧ひばり園は、木造平屋建てで、27年もたつて古くなっていました。それと比べて新ひばり園の、あまりの変わりようにみんな驚いていました。

さて十二月二日から、いよいよ新施設での通常の業務開始です。環境が大きく変わって利用者の方の精神状態が不安定になるのではないかと心配していましたが、ふたを開けてみるとみんな実に落ち着いています。なんの問題もなくいつもの作業に入っています。こちらがびっくりするほどです。これは、通勤のトラブルを防ぐために事前に何回も新施設を見にきていたのでなれていたことありますが、もう一つ大きなことは、ここに来て急にベアリングの仕事が多くなったせいもあります。景気が少し上向きになって車の売れ行きが伸びているよう

ご協力ありがとうございました。 11月の募金 46,020円  
(順不同) 平成21年4月～11月の合計 253,112円

井上 誠一	様	帯刀 幸子	様	北野 浩美	様
大野 元雄	様	帯刀 進	様	羽村 義男	様
森田 勝	様	清水 賢	様	加藤 照男	様
山下 暉枝	様	清水 知子	様	栗原 玉	様
袴田 実	様	山崎 六雄	様	山田 隆章	様
川崎 利男	様	宇津木 牧夫	様	橋本 亜紀子	様
濱野 岬	様	天満 喜代子	様	田中 稔	様
大内 たま子	様	竹内 照夫	様	山影 幸子	様
阿部 郁子	様	田村 由親子	様	吉野 満里子	様
平岡 知子	様	田村 千佳	様	小沢 達子	様
榎本 正代	様	清水 キヨ子	様	尾又 恭子	様
角野 克子	様	土屋 三枝子	様	関谷 博	様
斉藤 忠	様	平野 嘉子	様	桜沢 喜作	様
渡辺 四郎	様	関村 理	様	田中 明子	様
ア-サンカワノ	様	関村 英希	様	匿名様(3,202円)	

ご連絡は、ひばり園へ  
羽村市栄町3-3-1  
042-578-0855

くれよん11月の売上げ  
1,010,930円でした。

羽村市内の小学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さいます。ありがとうございます。

社会福祉法人 **そよかぜ** の

## 《資源回収》に

ご協力をお願いします  
新聞、雑誌、ダンボール

(ボロは扱っていません)

11月は24,540tでした。金額は340,335円となりました。この収益は、社会福祉法人そよかぜの運営資金になります。みなさまのご協力ありがとうございました。

1月は第3日曜日17日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

# ひばり園竣工記念式典に際して

社会福祉法人そよかぜ理事長

## 野崎 功市

本日、ここに「福祉作業所ひばり園竣工記念式典」を挙行しましたところ、ご来賓の方々ははじめ関係者各位の皆様には、公私とも何かとご多忙の折にもかかわらず、多数の方々のご臨席を賜り、厚くお礼を申し上げる次第であります。

さて、顧みますと、羽村市に初めて障害者のための授産施設「まいまい共同作業所」が「手をつなぐ親の会」により開設しましたが、昭和57年でありました。

その後、昭和61年に羽村市社会福祉協議会のもとに設けられた「ひばり園運営委員会」へと引き継がれ、さらに平成11年から12年にかけて、羽村市福祉センターの開設を契機として設立された、「NPO法人障害者団体連絡会そよかぜ」に継承されました。

以来、NPO法人として運営が続けられて参りましたが

平成18年4月に、障害を持つ方々が、自らの生き方を選び、豊かな人生を送ることを目的として「障害者自立支援法」が施行されました。そして、この法律に基づいて、障害を持つ人の個性や障害の程度に応じた新しい事業の運営が必要となりました。

しかし、法の目的を達成するためには、いままでの「NPO法人」の運営内容では、将来的に限界があるとの見通しから、平成18年6月のそよかぜ通常総会において、今後「そよかぜ」が目指すべき基本的方向として「福祉作業所の認可施設への移行」及び「社会福祉法人化」に向けて調査・研究を進めることが決定しました。

しかしながら、「NPO法人そよかぜ」には、社会福祉法人化に必要な基本財産もなく、また財政力も脆弱であり、認可施設の実現は極めて難しいものがありました。

こうした状況のなかで、羽村市障害者福祉計画への位置づけや市有地の無償貸し付けなどにより、国庫補助を活用した施設の建設や、その施設を基本財産とする社会福祉法人化に向けた方策について、市のご指導をいただきと共に、市当局自ら国及び東京都への度重なる折衝また複雑な事務手続きなど、全面的なご支援をいただきました。その結果、各種手続きが順調に進み、本年3月の法人化と共に新施設の建設が実現されたものであります。

ここにあらためて、並木市長のご配慮に深く感謝を申し上げますと共に、市御当局のご指導、ご支援に心から感謝と御礼を申し上げます。

また、国における国庫補助等の採択を受けるに際しましては、極めて難しい認可条件が課せられますが、国や東京都など各方面への働きかけなど、側面からいろいろとご尽力を賜りました関係者の方々に心から感謝を申し上げます。

また、こうして社会福祉法人化と共に、新施設が実現できました大きな要因として、羽村市議会のご理解と共に、長い間、ひばり園の運営に携わっていただきました多くの関係者、ご支援いただきました市民や地域の方々、そして授産活動を支えていただきました企業のご協力など、地域に根ざした、そよかぜの事業運営が評価されたことがあげられます。関係者各位に深く感謝を申し上げます。

いよいよ来る12月1日から新しく誕生した社会福祉法人のもとに、新施設が開設されるわけですが、これまで「ひばり園」や「あおぞら」など、分散しておりました作業所の一体化が図られると共に施設規模の拡大によって多数利用者の受け入れが可能となります。

また、障害者の福祉的就労はもちろんのこと、一般就労に向けた移行事業なども開始することとなります。

さらに、昨年、市から受託しました障害者就労支援センター「エール」の運営と併せ、障害者の多様な就労に向けた

相乗効果が期待できるものと考えております。

また、懸案でもありました精神障害者家族会が運営するスマイル工房につきましても、近く、当法人の運営に統合し、その一部門として活動していただく予定でございます。

今日まで、27年間という時代の変遷や幾多の課題を乗り越えてまいりましたが、社会福祉法人化、そして自主施設の建設ができましたことは、私どもにとりまして、まさしく長年の悲願である夢が叶えられたものであり、誠に感慨無量なものがあります。

これから「そよかぜ」の事業運営を進めていく上で、いろいろな課題や問題を克服しなければならぬことが多々あると思えますが、障害を持つ全ての方々の自立に向けた生活支援を通じて、障害者福祉に係る地域の中核的な事業法人として、その社会的責任を自覚し、心を新たに、なお一層の努力をしまいたいと思えます。

どうか、今後とも関係皆様の変わらぬ、御支援、御指導、御協力をお願い申し上げます。

ご寄贈いただきました  
ありがとうございます

羽村市羽加美にお住まいの書家・羽村和子様から、日展に入選されたことを機会に、ひばり園新施設にふさわしい作品をご寄贈いただきました。ありがとうございます。

当事者団体が

人権白書

被差別当事者などの団体でつくる実行委員会が人権白書を初めてまとめました。

障害者分野では、大家の意向で障害者が賃貸住宅への入居を拒まれていること、都内の病院や施設に入所する精神障害者が増加している、「地域移行は掛け声だけだ」としている。公教育では、障害児のため親が授業に付添うようにいわれたりする現実を訴えています。差別は日本社会の縮図であり、教育の現場でぜひ教えてほしいとしています。